



## 就職をめぐる現状～諦めなければ道は開ける～

総務省統計局「労働力調査」によって、全労働者人口に占める非正規雇用の割合が3分の1を越えたと明らかにされたのは一昨年(2008年)の3月でした。しかも、大学生世代を含む若年者の雇用に限ってみれば、この数値はさらに厳しいものとなり、一説によると2分の1の若者は不安定な非正規雇用の職につかざるをえないといわれています。どんなに努力したところで、同じ年代の2人に1人しか正規職員の座席が用意されていない現状に、おそらく若年者たちは「努力しても報われない」という感じを強く抱いているのではないのでしょうか。

この感覚は全体としてみるならば、若年者たちの現実を正しく反映したものと言えます。周知のように、石油価格の高騰に引き続いたリーマン・ショックによって深刻な経済不況が継続し、就職氷河期以上の求人難の中で就職戦線を戦い抜かなければならないという一層の厳しさが

が大学生たちの目の前には広がっています。しかし、この厳しさが、逆にチャンスを作り出しているという現状があります。多くの若年者が就職戦線から早期に「降り」てしまうことによって、結果として、逃げなかった者には用意されていた席が行き渡るという事態を作り出しています。つまり、「諦めなければ道は開ける」のです。5頁では、年頭にあたり、「あきらめたらそこで試合終了だよ」というコミック『SLAM DUNK』安西先生の名言とともに、就職戦線を勝ち抜くための考え方をご紹介します。

青森中央学院大学のキャリア支援教育では、経験の積み重ねによって諦めない人材を育成することを目指し、学生たちにトークサロン、eコマース、グループによる企業への改善提案書作成、トライアウト、公開模擬面接といった様々な機会を提供していきます。

(キャリア支援委員長 鈴木 克成)

# こぶしの花



青森田中学園報  
「こぶしの花」第76号  
発行・編集：「こぶしの花」編集委員会  
発行日：2010年3月15日発行  
〒030-0132 青森市横内字神田12番地  
tel: 017-728-0131  
fax: 017-738-8333  
<http://www.aomoricgu.ac.jp>  
<http://www.chutan.ac.jp>

## 青森中央学院大学

### 平成21年度の 修士論文、出そろっ

このほど大学院地域マネジメント研究科の21年度修士論文10編が提出された。どれもA4判で数十ページから百ページになる力作である。

論文タイトルに含まれているキーワードを列挙してみると、限界集落、雇用管理、地域分権、業務災害、中小企業、就業規則、青森リング、異文化経営、自動車保有分析、危機管理……となっていて、地域マネジメント研究科らしい幅の広さと深さが読み取れる。

特に外国人留学生が外国語である日本語で大部の論文を書き上げたことは、いくら褒めても褒めすぎるといえることはない。また、研究指導にあたった先生方の気迫を感じることができる。

このあと修士論文に関する「最終試験（口頭試験）」に合格すると、晴れて修士の学位が与えられる。

（地域マネジメント研究科長 菊地和聖）

### 江戸川大学との交流事業

千葉県流山市に大学キャンパスがある江戸川大学との学生間交流活動が行われた。8月末から9月初旬にかけて、江戸川大学のサッカー部が青森県内で合宿し、本学のサッカー部と交流試合を行った。また、11月上旬の江戸川大学の学園祭には、本学から6～7人の学生・教員が訪問して、交流を深めた。次年度にはさらに相互交流の輪を広げていきたいと会話が弾んだ。

### 卒業論文経過発表会

今年度より、従来の卒業論文の成果発表会(今年度は1月20日に実施)の前に、卒業予定の4年生全員による卒業研究の経過発表の場を設定することになった。初回の今年度は、12月16日の4・5校時という3・4年生のゼミの時間帯を利用して、4年生による発表、3年生による聴講とその後の質疑応答の形式で実施された。ゼミを8グループ（各9名～20名）に分け、分会で行なわれた。

提出前1ヶ月という時期でもあり、多くは未だ作成過程のものであるが、中には既にほぼ完成段階に達しているものも見られた。報告者は真剣そのもので、学生や教員からの質問に真摯に答えていた。発表会後に実施したアンケートからは、「大変参考になった」、「今後もこういった試みを実施していくべきだ」との声が多く聞かれた。

これら各グループからの代表と指導教員の推薦によって選ばれた12名の発表者によって、成果発表会が行われた。プレゼンテーションも2回目ともなると、学生もこなれてきて、スムーズに進行していった。特に各グループないしゼミの代表というせいもあるためか、4年生に限らず3年生からの出席も非常に良かった。終了後学長から、成果発表会の意義と、次いで相当細部にわたる講評が述べられた。

こうして発表を2段階にしたことは、大きな成功であった。

（小俣勝治 学務委員長）

### 入学前学習支援ガイダンスの開催

平成21年12月19日、本学の合格者に対する入学前学習支援プログラムの一環として、合格者への入学前ガイダンスが開催された。このプログラムは、高校と大学連携の観点から、入学後の学生生活を円滑に行うための知識や考え方の習得を目的として行われており、現在および将来の生き方を考える基礎的な態度や能力を養うことに重点が置かれている。

このガイダンスでは、プログラムの一環である通信教育課題の講義とその解説が行われたほか、目的指向型AO選抜の合格者を支援する語学準備講座や公務員講座などのプログラムの説明も行われた。当日は大雪の中、青森県外からの生徒も多数参加し、会場内は活況を呈した。



## カーリング部活動開始

ウインター・シーズン到来、創部1年目のカーリング部が本格的に活動を開始した。先ず11月2日～12日、日本ジュニア海外強化合宿に参加、カナダのエドモントンに初の海外遠征に出かけた。現地では、ホームステイをしながら、本場の練習方法をみっちり学んだ。また、12月2日～6日、軽井沢で開催された日本ジュニア・カーリング選手権では、3勝4敗と残念ながら予選リーグで敗退したが、北海道の常呂高校、京都大学に勝利するなど全国大会初デビューとしてはまずまずの成績である。今後の活躍に期待したい。



## 同窓会総会・懇親会を開催

11月、青森国際ホテルにて第3回同窓会総会ならびに懇親会が開催された。今年度同窓会に入会した新OB生も参加し、旧友・恩師との再会を喜び合った。数年前、岩淵会長が同窓会とは「タイムスリップ」のようなものと語ったが、当時の出来事を思い出すことが、未来への活力となるものであるという意味なようだ。経済不況が叫ばれて久しいが、このような時こそ、人と人のネットワークが社会を発展させていくものではないか。卒業生のネットワークが相乗効果を生み、新たな発想・構想が生まれることを期待したい。大学ではそのための支援として、「人材バンク」を設け、図書館や運動場などの学園内の施設・マンパワー提供を行っている。また同期会、サークルのOB会発足への協力が積極的に進めたいと考えているので、ぜひ活用してほしい。



## 青森中央学院大学野球部OB会発足！

12月11日、ホテル青森にて、青森中央学院大学野球部OB会第1回総会と懇親会が催された。第1回目ということで、緊張感が張りつめる中で今後の活動の内容が話し合われたが、懇親会では空気が一転、終始笑い声が絶えず、思い出話に花が咲いた。

創立時、野球部の部長を務めていた木村良一教授は、「最初は野球部を立ち上げることに腰が重かったが、今では本学の顔になりつつあり、本当に良かったと思っている。果たせなかった一部昇格を目指して、日々頑張ってもらいたい」と激励した。また、このOB会の発起人であり、会長の堀内慎太郎氏（第1期生）は、「このOB会が今後の青森中央学院大学の野球部を支援し、一部昇格のみならず、神宮目指して頑張ってもらおうよう応援していかなければならない」と力強く語った。

野球部創立10年目を迎え、本当の意味で野球部が1つになった。OB会という強力なサポートを得て、また新たな野球部がスタートする。



## OB通信

拝啓 青森中央学院大学様

私は青森中央学院大学  
経営法学部に編入学し、  
2年間勉強しました。昨  
年4月、黒石市にある青  
森オリンパス株式会社に



入社しました。青森で仕事ができ、本当に良かったと思います。今は青森の人々のやさしさを感じながら、仕事に励み、毎日頑張っています。

在学中の皆さんはどう過ごされているでしょうか。勉強、頑張っていますか。部活、頑張っていますか。国際交流活動に積極的に参加していますか。学生でいるのは本当にいいですね。

たぶん勉強は難しいかもしれませんが。現在、不況で就職に不安を抱える人がいるかもしれません。でも皆さん、困難に負けないで頑張って、自分の中に秘めている力を引き出して、自分が選んだ道を進んでください。皆さんの若さで、笑顔で、やさしさで、勇気で、きっと困難を乗り越えられると信じています。是非、チャンレンジして、頑張ってください。私も負けないからね。

最後になりますが、皆さんのご健勝とご成功を心よりお祈りします。

敬具

ゲン・タイン・フック (ベトナム)

平成20年度卒業 第8期生

## 国際交流センターより

### 中国江蘇省南通市の明正外国語学校の本学訪問

昨年12月7日、上海市近郊の江蘇省南通市にある明正外国語学校の袁明正校長先生と近藤三元教務主任が本学を訪問した。これは、昨年、本学が明正外国語学校を訪問した際に招請し、実現したものである。

今回は本学の施設や教育方針、交流関係などを実際に見聞してもらうことを目的として行われ、今後の相互交流を促進していくことで合意した。



## F S A

### ☆☆ポットラックパーティー☆☆

11月20日、F S A（留学生と日本人学生の交流サークル）主催により、秋季新入生歓迎会を兼ねて開催された。料理を一品持ち寄って参加する初めての企画であったが、多くの学生や教職員、地域住民が参加し、ゲームや留学生の母国料理などで大いに盛り上がった。



### ☆☆クリスマスパーティー☆☆

12月18日、恒例のクリスマスパーティーが開催された。企画から飾り付け、運営まですべてF S Aが行う一大イベントである。今年は、「タレントショー」と題し、5組の学生達によるパフォーマンスがあり、マレーシアのチームが1位を獲得した。

また、参加者が持ち寄るプレゼント交換があり、終始、にぎやかなパーティーとなった。



## 青森西高校人文科へ留学生を派遣

国際語学サポートセンターでは、地域の公的機関や学校からの依頼を受け、留学生を派遣しているが、今回は青森西高校人文科の国際理解セミナーに、マレーシア、タイ、ベトナムからの留学生7名を派遣、それぞれの母国の文化を、「英語」で紹介した。



## 青森サポーター事業

### ★★りんご収穫体験★★

本学とおもりにくらしの総合研究所は、「留学生に青森の農林水産業、県産品、文化等を研修させ、帰国後も青森のPRができる人材を育てる」ことを目的とし、本研修事業を毎年、実施している。今年度は、11月8日に、留学生66名が平川市観光りんご園でりんご収穫体験をするとともに、りんごの品種による味の違いなどについて学んだ。



### ★★黒石よされ踊り体験★★

11月14日、日本三大流し踊りである「黒石よされ踊り」を体験した。留学生は、慣れない動きやリズムに戸惑っていたが、最後には様になった踊りを見せた。

また同日、弘前中央青果市場でせりを見学したり、カネショウ株式会社で社長の講話を聞き、また、りんご酢ができるまでの行程を見学した。



### ★★青森サポーター事業修了式・

#### 国際語学サポートセンター活動報告会★★

1月19日、青森県農林水産部構造政策課長、十和田市農林部長、青森県緑化推進委員会事務局長を来賓に招き、留学生への修了証交付式が行われた。活動報告会では、派遣された留学生が感想や活動の意義・成果を発表した。また、全員で「リンゴの唄」を歌ったり、「黒石よされ踊り」を踊ったりして、平成21年度の活動を締めくくった。

## 留学生の国際交流活動

## 日本語教授法研究事業

財団法人青森学術文化振興財団の助成を受け、県内で日本語を教える講師の資質向上を目的として、講義とともに講師による模擬授業を見て学ぶ事業が実施された。テーマは、①学習者ニーズの多様性を授業に反映する、②日本語教授法をもう一度考える（国語教育との違いを中心に）、③ゴールからの授業設計、④既存教材の活用の4テーマである。実際に模擬授業を観察し、「実際の教え方」を確認できたことは意義があった。また、参加者同士の話し合い、講師への質問等も活発に行われ、互いの知識や経験を共有し、それぞれの教育実践を振り返る場となった。

## 就職戦線を勝ち抜くために ～あきらめたらそこで試合終了だよ～

文科省と厚生労働省がまとめた「就職を希望する今春卒業予定学生の12月1日時点での内定率」は7割前半となり、就職氷河期時代を上回る厳しい雇用状況が続いています。現3年生に関わる来年度の事情についても、経済の冷え込みが続く中で大手企業が採用活動の先送りを発表するなど、状況が改善される目処はまったく立っていません。この現実を目を背けることなく、自らの人生を切り開くために学生自身に何ができるか、また本学はそれをいかにサポートしていくのか、今回は、これをお伝えしていきたいと思えます。さて、7割台と言えども、言い方を変えれば、これだけの困難の中でも、7割の学生は確実に内定を勝ち取っているということでもあります。北海道・東北地区内定率は全国平均を下回り、依然として6割台に留まっていますが、本学の学生はよく健闘し、全国並の結果を確保しています。従って、本学がさらに高い内定率を目指すことはもちろんですが、個人としての学生の皆さん自身は、この7割に自分が入ることを目指すことになります。

それでは、7割と3割を分けるものは何でしょうか？すでに昨年の春より、数十社を受験し続けて内定を獲得できない苦しい学生の戦いが度々テレビ等で報道されてきましたが、まもなく卒業を向かえようとしている今、不採用の連続にも気持ちが折れることなく活動を継続したほとんどの学生たちは実はきちんと結果を出しています。秘めた力を持ちつつも、それをなかなか面接試験で発揮できない学生も、受験を繰り返す中で経験を積み、自分に何が欠けているのか振り返りながら問題を克服して採用通知の獲得へといたっています。企業の方でも、困難を乗り越えた学生を見抜き、必要な人材と見なします。ということは、7割と3割を分けているのは、実は「気持ち」なのだと言っても過言ではありません。

就職活動の二極化ということが指摘されています。一般には内定長者と言われる複数内定獲得者と未内定者へと学生が二分されていくことだと思われていますが、厳しいからこそ何とか内定を勝ち取ろうとする学生と、どうせやってもダメだからと2～3社受験した時点で投げってしまう学生とに別れ、それがそのまま結果につながっているというのが、多くの就職指導関係者たちの実感であり、本学でもまさに同様の状態となっています。皮肉なことに、投げる学生がいるからこそ、当初苦戦した学生も諦めずに活動を続けた結果、希望をかなえることができるようになっていきます。しかし、これは同時に、「諦めなければ実は道は開けている」ということを意味しています。

それでは、この諦めない学生と投げ出してしまふ学生との違いは何でしょうか。両者を分けているのは一

言で言えば自信です。大学時代にいちばん培わなければならないのは、試行錯誤を繰り返す中で身につく、自分に対する信頼感です。「やればできるだろう」ではなく、「やって、失敗もしたけれど、乗り越えた」という積み重ねが未来への道を切り開きます。

これまでお伝えしてきたような、本学のキャリア支援教育が重視する課題解決・参加型プログラムは、この試行錯誤のチャンスを提供して、学生に経験と自信をつけるためのものに他なりません。プログラムという機会を活かして積極的に取り組んだ学生たちは、ほぼ例外なく結果を出しています。学生時代を漫然と過ごすのではなく、何かに夢中になること、キャリアのプログラムに能動的に参加すること、就職活動を戦い抜くことは連動しているのです。隔週のプログラムにほんの少し気持ちを変えて臨むだけで、未来が開けるのです。皆さんはどうされますか。青森中央学院大学では他の大学ではできない体験を提供できるように、今後もキャリア支援教育を充実させていきます。

(キャリア支援委員長 鈴木克成)



# 青森中央短期大学

— 青森中央短期大学 今年の1年を振り返って —

学長 久保 薫

平成21年度は、チャレンジ精神あふれる学生と熱い思いを胸に教育にあたってくれた教職員との一体感を感じる年であった。

青森県から委託された「食育啓発事業」、青森県立美術館で行われた「幼児保育学科卒業公演会」、初めて巣立った看護学科1期生の社会での活躍、学びの集大成としての「特別研究・看護研究」と、自分の力をのびのびと出し切った形を様々な場面で見ることができた。短期大学という限りある時間の中で、多くの目標に完成度を落とすことなく、簡略化することなく、むしろ一層進化した形で成し遂げたことを自負したい。

また、図書館の開館時間延長やグループ閲覧室の増設、パソコンの貸出等、教育環境を整備したり、コミュニケーション、プレゼンテーション、ディスカッション等の要素を教員が積極的に授業に取り入れ、学生主体の教育方法を展開していった。その結果、学生の学習意欲も一段と向上し、ITスキル・考え抜く力・チームで働く力など、大学教育に期待されている学士力、社会人基礎力を培う土壌が築かれたと思う。

## 特別研究・看護研究発表会

### 食物栄養学科

今年も12月に特別研究発表会が行われた。米粉を料理に取り入れる方法、摘果りんごの食品加工への利用、地元の特産品をアピールするツールの作成など、地域の活性化につながるような研究テーマが目立った。学生の地域のために何かしたいという気持ちが伝わってきた。卒業後はこの気持ちを活かし、地域に貢献できる人材として活躍して欲しい。



### 幼児保育学科

このたび、幼児保育学科では45テーマの論文が提出され、特別研究発表会が12月17・18日に実施された。身近な素材を活用した手作り玩具の研究や、リズム教育、おやつ作り、障がい児保育、絵本に関する研究等という、どれも保育実践において欠かせない内容が取り上げられていた。幼児保育学科の特別研究は、多くが文献研究のうえに実践を積み重ね、検証する手法をとる。これらの成果は、今後、それぞれの職場で保育の専門性を追求するうえでの基礎研究となると信ずる。



### 看護学科

平成21年度看護研究発表会が開催され、発表演題数(示説)は昨年度より多い43題でした。7つの専門看護領域毎に、各学生が追及したいテーマを題材に取り上げ、研究手法や調査フィールドも多岐にわたり、興味深い研究が多かったと感じました。当日は、3年生はもとより1・2年生との活発な意見交換がなされ、学びを深めることができました。



### 専攻科福祉専攻

#### 優秀賞の紹介

優秀賞受賞 専攻科 梶澤秋恵

誤嚥性肺炎が原因で死亡する高齢者が増加しており、誤嚥性肺炎を防ぎ、楽しく安全に食事していただくため、私たちは姿勢に着目し研究を進めました。

ベッドの角度や食事形態を変えて食べるという実践や、誤嚥を防ぐための様々な方法を実習の観察で知ったうえで、援助者である私達に出来ることなどを考察していきました。



## 食物栄養学科

### —フードスペシャリスト資格認定試験—

認定試験は毎年12月に行われる。学生たちは合格をめざし、10月から始まった試験対策講座に真剣に取り組んでいた。試験直前には空き時間も自習し、試験に向けて万全を尽くしていた。学生からは「先生たちも関係のある授業では試験のための時間をとり、丁寧に指導してくれたので、試験に向けてしっかりと勉強に取り組むことができた」との声も。



幼児保育学科：人形劇

## 幼児保育学科

### —卒業記念講演—

幼児保育学科39期生卒業記念公演が、12月5日、青森県立美術館にて上演されました。今年の公演は、人形劇「オズの魔法つかい」、影絵「びじょとやじゅう」、ミュージカル「うらしまたろう」。サブタイトル「Our message ～あなたの大切なものは何ですか～」にはそれぞれの演目から紡ぎだされる「大切なもの」を問いかけて、という学生たちの熱い思いが込められ、当日は200名以上の方々からの大きな拍手を頂きました。



幼児保育学科：ミュージカル

夢に  
むけての  
活動

## 看護学科

### —国家試験対策—

学生6名が2年次より国家試験対策委員となり、国家試験に全員が合格できるよう活動してきました。教員や学校主体で行われる対策講座の他に、自分たちで過去問題をピックアップしての問題作成や、学生の意見を聞き教員に対策講座を依頼するなどして、少しでも合格に近づけるように日々頑張りました。

(看護学科 3年 藤井隆太)



看護学科

## 専攻科福祉専攻

### —卒業時共通試験—

卒業時共通試験は、介護福祉士養成施設が全国一斉に2月に実施する国家試験に準じる試験です。これに向けて、授業で問題集を用いて各科目ごと、先生のわかりやすい解説をノートに書きとめ、そのノートを活用し、家で勉強してきました。また、休みの日には、苦手な教科を勉強する時間にあて、少しでもその教科を克服できるよう努力し、時間を有効に活用し、勉強方法も工夫して合格できるよう頑張りました。

(専攻科 小野雅史)

# 卒業生も活躍しています

### 十和田市中央病院勤務 力石圭子(看護学科1期生)

現在、私は十和田市中央病院で勤務しています。去年の秋、在学中の指導教員から「学生時代に行った看護研究を研究会で発表してみないか」というお話を頂き、平成21年12月に行われた青森県周生期医療研究会で発表しました。仕事の都合上メンバーが集まらず発表は私一人で行い

ましたが、3人でまとめた事をたくさんの臨床の方々の前で発表する事ができ、貴重な経験となりました。今後やりたい事はたくさんありますが、まず助産師資格獲得の夢を叶えるために一から勉強していきます。



# 自分史

## 大学で学ぶこと



食物栄養学科  
棟方 秀和

学生時代も合わせると大学という教育機関で21年間過ごしてきた。人生の半分以上の期間だ。最近になってやっと大学が何を学ぶ場所なのかわかってきたような気がする。大学は授業やそれ以外の活動を通して教員や同級生などと交流しながら、生き方を学び、自分の生き方を決める場所だと思う。今考えれば、大学の授業では専門的な知識や技術だけでなく、教員の考え方や生き方も学んでいた。

今度は大学の教員として、一人でも多くの学生が生き方を学べるように接していきたい。そのためにも、さまざまなことに挑戦し、経験の幅を広げていこうと思う。

## 懐かしさと共に



幼児保育学科  
中村 純子

この道にすすみ、9年目を迎えようとしている。仙台で教えていた学生が、中堅の立場となり本学へ研修にきた。そして故郷に戻りすっかり大人びて、活き活きと仕事をしている姿を見た。

♪君の声が力になる

君の笑顔が力になる♪  
一緒に聞いた歌である。笑いあり、涙ありのその後であっただろう、と推測される逞しさが感じられた。お互い成長し合おう、と約束して別れたが、もう一度あの歌と一緒に聞きたいと思う。

“一生学ぶのが人間であり成長する”  
その時代の歌を聞き、一緒にすごした懐かしさと、共に支えあい、力になる自分になれたらと思う。

## 人生は邂逅である



看護学科  
浜端 賢次

私の生まれた年に、タカラトミーのプラレールから新幹線ひかり号が発売された。その影響か、幼少時は新幹線の運転士になることが私の夢だった。しかし、大学卒業時は「安定した仕事に就きたい、人並みに幸せな人生を送りたい」という現実的な夢に変わっていた。いつも思うことではあるが、夢とはなんだろうか。

現在のところ、私は白衣の天使を職としているが、やはり人とのつながりがとても大切であると実感している。まさに、人生は邂逅である。青森に来て早や5年、私はこの地と人が好きである。

## AOサポートプログラム

本年度で4回目となるAO入学前サポートプログラム。本年度は、専門を学ぶ前の段階である今、残りの高校での勉強を大切にする「学習の習慣化」を目的に、スクーリングでは高校の授業の補充や専門分野への橋渡しとして、食物栄養学科では「栄養士に必要なとされる品格」、幼児保育学科では「保育者の人間性と専門性」、看護学科では「看護師に必要な能力」をテーマに学科プログラムを展開している。通信課題では高校の授業を継続する「授業レポート」を行っている。

10月31日から始まり、3月27日までのプログラムとなっている。自分の未来に向けて目的が達成できるような取り組み（姿勢）を期待している。



## 大好評

## クリスマス親子クッキング

この講座は、食物栄養学科の公開講座として実施しており、楽しみながらできることで、料理や食に関心をもつきっかけになればと思っています。子どもたちが真剣に取り組む様子や、参加者の方の笑顔が毎回印象に残ります。毎年参加して下さる方も多く、今後も満足していただける講座を企画していきたいと思っています。



## 児童画展開催

本学1号館1階学内ギャラリーにて、平成22年1月12日～29日まで「児童画展 ～青森中央短期大学附属第一幼稚園児童による～」を開催しました。

この展覧会は、附属第一幼稚園に通う園児たちが描いた作品（全113点）を一堂に展示することで、子どもたちの感性や元気な活動の様子を鑑賞者に伝えることを目的としたものです。

会期中は、短い展示期間に関わらず、多くの園児、保護者、学生が会場に足を運んでくださり、園児と一緒に作品を鑑賞する保護者や、好きな作品について話し合う学生の姿を目にすることが出来ました。

今後も、学内ギャラリーにおいて、児童作品や学生の授業作品を展示していくことを予定しています。作品制作・鑑賞を通して学生の感性を育み、豊かな感性を持った人材の育成を目指すことで、地域の教育の発展に寄与することが出来れば幸いです。

現在、ギャラリーでは、「卒業記念展 Our message ～あなたの大切なものは何ですか～」として、幼児保育科39期生の授業作品を展示しています。そちらも是非ご覧ください。



## 第2回FD研修会開催

平成22年2月8日13:00～（於713教室）、各学科で一律の評価基準を設けにくい科目の現状を考慮し、客観的で厳正な成績評価を目指すことをねらいとして、第2回FD研修会が開催された。愛媛大学大学院・医学系研究科看護学専攻・准教授 野本ひさ氏を講師にお招きし、「講義・研究・臨床実習の特性を考慮した客観的・公正な成績評価」と題してご講演いただいた。授業の到達目標の達成度を総合的に評価する「ルーブリック評価」について、具体的な事例紹介を交えて話され、とても刺激的で興味深い内容であった。参加者は教職員34名であり、講演後は5つの科目毎グループ（講義・学内演習・臨床実習等）に分かれ、「本学における教育への実行可能性」について討議・発表し、さらに野本先生から貴重なご助言をいただくことができた。参加者からは「学生を育てる評価」という視点が大切であるという感想が述べられていた。



## 平成21年度青森県福祉・介護人材確保対策事業 ～福祉・介護体験してみませんか

青森中央短期大学では、平成21年度青森県福祉・介護人材確保対策事業を実施することになった。背景として、高齢化の進行、世帯構成の変化、ライフスタイルの多様化など我々の福祉・介護ニーズがますます拡大している一方で、生産年齢人口の減少に伴い、労働力確保が重要な課題になると見込まれている。その中で質の高い福祉人材を育てようという国の方針で、青森県において本学が、初めて「複数事業所連携事業」を実施するに至った。

この事業は、福祉サービス事業所でネットワークを形成し、福祉の総合短期大学である本学がコーディネーターとなり事業所間連携により、福祉の魅力を今後の日本社会を支える中高生に伝えようというものである。青森市内の全中高生18,200名に呼びかけ、第1回は2月20日65名の参加、第2回は3月4日青森県立西高等学校で23名の参加があり、高齢者施設・保育園の見学や、高齢者との製作活動やおやつ作りを通して、高齢者とふれあい体験を行うことができた。

これが、今後の福祉に関心がある中高生の進路選択の一助になればよいと考えられ、本事業の継続を青森県と連携して行い、それが地域貢献につながると確信する。





# 附属幼稚園

## 附属第一幼稚園

〒030-0122 TEL 017-764-2600  
青森市野尻字今田108 FAX 同上

### ひとつひとつの行事で成長が感じられます

#### <クリスマス誕生会>



ろうそくの火を吹き消して  
みんなにお祝いしてもらったよ。

#### <おもちつき大会>



「ベッタンコ」と大変だったけど  
おいしいおもちができたよ。

#### <おにぎり作り>



お米大使と一緒に楽しく遊んだよ。  
おにぎりも上手に作ったよ。

## 附属第二幼稚園

〒038-0031 TEL 017-782-5665  
青森市三内丸山16 FAX 同上

### 心の豊かさが随所に見られるようになっています

#### <水族館見学>



イルカショーに感動して全員笑顔  
で拍手を送りました。

#### <お遊戯会>



金のがちょうで笑わない姫が若者の  
勇気で幸せになって本当に良かったね。

#### <保育参観日>



みんなで幼稚園の周りの街を作ったよ。  
ほくの家はここだよ。お花や木、お店も作りました。

## 附属第三幼稚園

〒030-0921 TEL 017-726-2112  
青森市原別字袖崎9 FAX 同上

### いろいろな人とのかかわりで活気にあふれています

#### <おもちつき大会>



「ヨイショ、ヨイショ」とおもちをついたよ。  
みんなで食べたお雑煮おいしかったね。

#### <クリスマス誕生会>



サンタさん、プレゼントありがとう。  
いい子にできて良かったね。

#### <東高校生と交流>



おにいさんとおねえさんと一緒に作った  
帽子がかっこよくできたよ。

# 社会福祉法人 中央福祉会



おゆうぎ会リハーサル。本番も上手にできてよかったね。

「豊かな経験で  
心も身体も大きく育ちました」



改修工事が終わり、きれいな浦町保育園になりました。平成22年度入園児受付中です。

# 中央文化保育園

青森市幸畑一丁目27-1 TEL (738) 5161



「消防総合訓練」  
消防車も来てくれました。



年長児だんぼ組による英語の歌  
「The Hello Song」



雪が降ってきたよ。  
バンザーイ！！



「たこやきCar」がやってきた。  
お腹いっぱい、ごちそうさま。



ふっくらモチモチ、自分たちで  
ついたおもちは最高。



お部屋の中はポッカポカ。  
大好きな積木あそび。

# 浦町保育園

青森市中央三丁目21-4 TEL (734) 7749



大きな大根とれたよ！



おゆうぎ会。おひさまの衣装で  
かわいらしく踊りました。



勤労感謝の日  
消防のおじさん、お仕事ごろう様。



みんなでみそ汁にして  
食べました。おいしかったよ。



かけ声元気に、ディスコじょんがら  
を踊りました。



消防署 見学。いろんな  
消防自動車を見て来ました。

# 青森中央文化専門学校／青森中央経理専門学校

## 医療事務コース 看護学科連携授業＆職場実習

平成21年4月からスタートした医療事務コースは、昨年11月から青森中央短期大学看護学科との連携授業と職場実習が始まりました。

連携授業では、看護の歴史、看護概論、実習施設見学や専門用語の理解等多岐にわたる内容でした。また、職場実習では緊張しながらも、窓口対応やカルテ入力等実務経験をしました。

学生の声は、「医療事務といえども単に事務をこなしていくことではなく、患者さんの不安や悩みを察したり一緒の目線の必要性を感じた」「ますます医療事務に就きたいと感じた」などがあり、とても充実した実習でした。



## 卒業制作発表

平成22年2月12日、青森中央経理専門学校では、卒業制作発表会を開催しました。

2年間の集大成として、今年度は「ネット定期」や「所得税」について等の専門性を追求した内容や、「裁判員制度」や「環境問題」等の社会性をテーマにした内容を、プレゼンテーションソフトを使用して発表しました。



## そろばんサークル

平成21年11月から、そろばんサークルが経理1名、学院大生2名の計3名でスタートしました。

サークルがスタートした当初は、いずれの学生もそろばんに触るのが久しぶりだったため、思うようにそろばんを弾くことができませんでした。いま現在は、容易にそろばんを弾くことができるようになり、各学生がそれぞれの目標に向かって、日々練習に励んでいます。



## 成人式／テーブルマナー

青森中央文化専門学校、青森中央経理専門学校では、平成22年1月18日ウェディングプラザアラスカにおいて、成人式を行いました。

在校生や教職員が新成人の新たな門出を激励・祝福し、新成人を代表して、青森中央経理専門学校の小野奈麻子さんが、これまで育ててくれた社会へ、しっかりと貢献していきたいと抱負を述べました。

また、生活文化セミナーの一環として、日本料理の会食マナーを勉強しました。

社会人となると、個人としての参会だけでなく、企業の代表として、会食の場に出席することが多くなります。食事をする順番だけではなく、バッグ類の扱い方、挨拶、会話の進め方、終了後のお礼の仕方等広く学ぶことを目的とし、メニューの構成や見方、特殊な用語の意味も勉強し、教養を深めました。



## Bunka Fashion Live 2009



平成21年12月19日、アウガ5階AV多機能ホールにおいて、青森中央文化専門学校「Bunka Fashion Live 2009」を開催しました。

学生によるファッションショーのテーマは「catalogue（カタログ）」、自分たちの考える新しいスタイルの提案をしました。

今年度はファッション甲子園2009 入賞作品、デザイン画の展示や、学生達が学園祭で発表した衣裳を身につけ、公募した高校生モデルが次々と登場、また、産学連携としてアウガショップの最新ファッションスタイリングショーには青森美少女図鑑モデルが登場しました。

1年間の集大成の発表として、自分たちのショーを作り上げることが出来、更なる意欲へと繋げることが出来ました。



## こぎん刺し

平成22年2月15日、青森中央文化専門学校ではこぎん刺し講習会を開催しました。

「岩木かぢらず会」の大高真知子先生を講師に、学生たちは津軽を代表する伝統工芸品である『こぎん』の技法を学びました。

津軽に伝わるこぎん刺しは、津軽の女性たちが厳しい生活の中からつくり上げた刺し子の芸術です。

奇数の目数を基本とした幾何学模様により、花瓶敷きや巾着などの日常生活に使える小物を作りました。

また、青森中央学院大学留学生も参加し、日本の津軽伝統工芸に触れました。



## 卒業生 PICK UP

専門学校を卒業し、社会人としての一步を踏み出しました。

2年間の授業で得た知識を生かし、憧れだったファッション界で頑張っています。

今は学生時代にファッション販売やファッションビジネスの資格を取った事で自分に自信が付き、お客様との会話にその知識を活かすことができた実感しています。

在校生の皆さん、たくさんの知識を蓄え資格取得に励み頑張って下さい。

自分の夢と重なった時、あの時頑張って良かったと思う日が必ず来ます。

私は現在一人でも多くのお客様と信頼関係を築き、より良い商品を提供できるよう頑張っています。

青森中央文化専門学校 平成20年度卒業 山谷 香純  
株式会社ユニクロ



## 青森県基本計画 未来への挑戦 リレートーク

2月9日、10日の両日、本学において、青森県企画調整課主催による「青森県基本計画未来への挑戦リレートーク」が開催され、両日とも基本計画策定に携わった青森県総合審議会委員による講演と、県と本学の共同プロジェクト「学生発未来への挑戦」に参加した学生チームが研究成果を発表、意見交換が行われた。1日目は、日本銀行青森支店長の鶴見誠一氏が「青森県経済の活性化に向けて」と題し、青森県における「食」産業の可能性や金融機関の支援機能の重要性を訴え、次に3年ゼミチームと3年生有志チームが発表した。2日目は、ヤフーバリューインサイト（株）創業者の大谷真樹氏が、「青森からチャレンジ！逆転ホームラン!!」と題し、自らの成功体験にもとづいて「人生は『選択の結果』であり大きな夢を持って今すぐ行動しよう」と熱く語りかけ、続いて1年ゼミチームと留学生チームが発表した。両日とも、講演者、参加者、学生チームの間で青森県の魅力や展望について活発に質問や意見が交わされ会場は大いに盛り上がった。  
(大野和巳 プロジェクト統括リーダー)

## ☆☆3年ゼミチーム共同研究☆☆ 「青森スイーツ・ノベンバー2009」応援

本学と青森県の共同企画「学生発未来への挑戦プロジェクト」のプロジェクトチームの一つで、東青地域県民局が行っている「青森スイーツ・ノベンバー2009」を応援しているチームが、ブログ「すういーつはかせ@青森」を立ち上げた。参加している東青地域の菓子店15店を周り取材、若者の視点、表現方法で、スイーツを紹介している。また、12月18日、県庁で開催された「青森スイーツ・ノベンバー実行委員会」で、事業改善提案を実施、「学生ならではの発想とアイデア、来年の参考にしたい」と高い評価を受けた。  
(指導教員 佐藤淳講師)  
応援ブログ <http://sweets-pj.jugem.jp/>



## 官学連携青森県基本 「学生発

「学生発未来への挑戦」は、青森県が昨年4月にモーション活動の一貫として、本学が青森県と連携の未来を豊かな「生活創造社会」にするために、識のもと、本学の1年基礎ゼミチーム（指導内山教志チーム（指導佐藤講師）、留学生チーム（指導保教授）の5グループが、それぞれ地域振興、企業究を行ってきた。本プロジェクトの教育的な意義える課題を認識し、さらに若者の視点と自由な発想ジすることである。それぞれの学生が本プロジェクトを担う人材へと成長してゆくことを期待したい。

## ☆☆3年ゼミチーム共同研究☆☆ 「失敗企業から学ぶ経営の成功要因 ～成功企業との比較研究～」

大野ゼミ3年生は、青森県企業が存続し成長・発展することが「生業づくり」（基本計画キーワード）に欠かせないと考え、世界同時不況のなか経営破綻した青森県企業2社と、経営危機を乗り越え経営再生し現在も成長を続けている大企業2社の比較研究により、企業経営の成功要因について経営者機能の視点から考察した。ゼミの共同研究が基本計画推進プロジェクトに選ばれたことにより学生達の士気は高まり、5月の県庁における研究計画発表、6・7月の県担当者に対する中間報告、9月の学園祭における研究発表と意欲的に研究を進めてきた。プロジェクトに参加したことにより学生達のチャレンジ精神は大いに発揚された。  
(指導教員 大野和巳准教授)

## ～ 針供養 ～ 青森田中学園感謝祭

平成22年2月8日針供養にちなんで青森田中学園感謝祭が行われた。昭和21年青森中央文化専門学校創立から63年続けている針供養は、針に感謝し折れた針を柔らかい豆腐に刺して供養し、裁縫技術の上達を願い、この日は一日針を休める。また、各施設の学生や園児達が、学業に大切な教材や日頃使っているものを祭壇に供養する。

労働基準法も法定休日もなかった時代、女性が休める日は針供養の日以外にはなかった、私達は今、平和で恵まれた世の中に何不自由無く生活している。このような時代だからこそ、感謝祭を通して物を大切に、感謝する心を忘れないようにしたい。

## 学 園

## 学生会館合同スポーツ大会

11月7日、学生会館（寮生宿舎）合同スポーツ大会として、ボウリング大会が開催された。初めて、こぶし会館・国際交流会館・学術交流会館の合同開催となり、47名の寮生が参加した。チーム戦による熱戦がくり広げられた後、各寮生は垣根を越えた交流を楽しんだ。



## 大学コンソーシアム青森センターの利用について

本学を含めた青森市内の7大学で組織する大学コンソーシアム青森では、青森市安方にコンソーシアムセンターを開設した。コンソーシアムセンターでは、定期的に各種講座等を開設しているほか、小規模の研修・会議等の会場としても利用できる施設となっている。また、各大学の最新のパンフレットや催し物の案内が常置されているので、気軽にお立ち寄りいただきたい。  
大学コンソーシアム青森 青森市安方1-10-7 TEL 017-72-7272

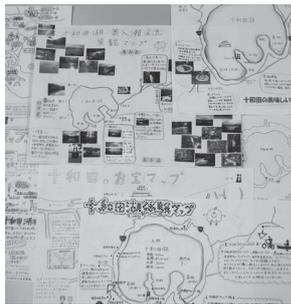
# 計画推進プロジェクト 未来への挑戦

開始した「青森県基本計画未来への挑戦」のプロとして実施している共同プロジェクトである。青森県今、「自分達にできることは何か？」という問題意識、3年ゼミチーム（指導大野准教授）、3年生有ゲン客員研究員）、そして短大生チーム（指導久経営、地域物産、まちづくりをテーマとして共同研は、県基本計画に対する理解を深め、地域社会の抱によって県の課題解決にむけた政策提言にチャレントの経験から学んだことを活かして、青森県の将来（大野和巳 プロジェクト統括リーダー）

## ☆☆1年基礎ゼミチーム共同研究☆☆ 【十和田観光マップ制作】

十和田市と本学との交流連携協定を踏まえて、地域マネジメント研究所では十和田湖・奥入瀬地域の観光振興計画づくりの調査を進めている。その調査の一環として、学生による手づくり観光マップの作成を行った。若い学生の感性を活かした数々の「こだわりマップ」が完成した。「デートスポットマップ」や「スイーツマップ」、「地域のお宝マップ」、「体験アクションマップ」など従来の観光マップの概念を打ち破る力作が誕生した。近々、十和田湖地域などで配布される予定である。

（指導教員 内山清教授）



## ★★短大生チーム共同研究★★ 「健康寿命アップがん予防」

青森中央短期大学では、「安全・安心、健康」分野に注目しました。食物栄養学科では、「健康寿命アップがん予防」をテーマに、①青森県民の健康状態を分析し課題を明確にする、②食生活とがんの最新情報を学ぶ、③地域の健康増進に役立つパンフレットを製作する、の手順で取り組みました。インパクトのある個性あふれる8種のパンフレットが完成しました。栄養士として、青森県の未来に貢献すべきことが少し見えてきたようです。

（指導教員 久保薫教授）



## ★★留学生チーム共同研究★★ 「世界から見たAOMORI」

青森滞在の留学生や外国人観光客は、「英語の観光情報が少ない」、「移動手段が不便」や「若者の遊ぶ所が少ない」という様々な課題に直面する。本プロジェクトは外国人に青森の生活に慣れ、充実した滞在期間を過ごして欲しい、また、青森を今より世界に開かれた都市、そして、世界各地から来青する人々にフレンドリーな青森にしたいというプロジェクトの関係者全ての思いがこもっている。留学生の視点から課題のメカニズムを考察した上で、留学生の資源（語学力、母国文化の理解や母国料理の腕前など）に注目しながら、地域内の相互扶助・役割分担の仕組みや交流の場づくりという構想を策定し、これを基にまちづくりの取り組みを多面的に進めた。

（東北大学大学院 グェン・チ・ギア 本学OB）

## 共通

### 平成21年度イルミネーション点灯式

恒例となったイルミネーションも、今年で8年目を迎えた。今年は、5号館アーチを中心とした両サイドの樹木をメインツリーとし、正門の大木を照らすアップライト、観光通りに沿った並木、そして幼稚園入口付近と4箇所に分け、約27,000球を使用して、幻想的なイルミネーションとなった。12月1日の点灯式では、附属第一幼稚園の園児約70名を中心としたクリスマスソングの大合唱、そしてハンドベル演奏がイルミネーションと絡み合う華やかな式典となった。最後にプレゼントを持参したサンタの登場で、点灯式の幕が閉じられた。

（イルミネーションは  
2009.12.1から2010.1.31ま  
で毎夕4時から夜10時まで  
点灯）



## 日本学生支援機構（旧日本育英会） 奨学金の貸与を受けた卒業生の皆様へ

日本学生支援機構の奨学金はその貸与機関終了後返還するものであり、その返還金は後輩の奨学金の財源として運用されていく仕組みとなっています。しかし各種報道等と言われるように、近年、返還に係る延滞額及び延滞人数が増加しており、社会問題化しています。

本学の卒業生においても、残念ながら一部延滞している卒業生が発生しており、卒業生の延滞率によっては、将来的に、現役の学生の奨学金枠を減額される可能性が高くなっています。在学中に奨学金の貸与を受けた卒業生各位におかれましては、確実な奨学金の返還をお願いするとともに、各種返還猶予制度等がありますので、不明点等を含め、以下の機関へご相談下さいますようお願い致します。

奨学金返還に関する相談窓口

独立行政法人日本学生支援機構 奨学事業部

返還相談センター

TEL 0570-03-7240 月～金曜（土日祝日年末年始を除く）

<http://www.jasso.go.jp/henkan/index.html>

または本学事務局学務課奨学金係までお問合せ下さい



**活動まっ最中!**

青森中央学院大学 経営法学部3年  
近藤 杏奈

私は現在就職活動中ですが、その際に実感しているのは、大学生活で様々なことに挑戦し、頑張ることの大切さです。私は機会があればあらゆることに取り組んできました。ボランティア活動「カタリバ」では高校生への指導を、学友会活動では翔麗祭の広報委員長を、eコマースプログラムでは青森県産品をネット販売するための企画や交渉をといった具合にです。活動を評価してもらう中で、若年雇用を考えるフォーラムでは、学生代表パネラーとして参加する機会も得ました。全ては私の自信へとつながり、かつの自分からは考えられないくらい積極的な人間に成長したと思っています。こうした経験を活かし、今後の就活も頑張っていきたいと思っています。

**ボウリング部活性化をはかる**

青森中央学院大学 経営法学部1年  
根深 滯



この一年間は、大学生活に慣れることに必死だったため、部活と勉強を両立させるのがとても大変でした。

今年一年間のボウリング部の活動は、県内県外ともに大会が多く、忙しく充実していたと思います。

今年は、個人での大会が主だったのですが、来年からは団体戦が主になってきます。数少ない部員ではありますが、少数精鋭で大会にのぞみ、成績を残せるように、これからもより力を入れて練習していきたいと思っています。



**大学生としての努力**

青森中央短期大学 食物栄養学科1年  
今 未 夢

入学時に、大学は高校とは違うと言われて不安になったのをよく覚えています。しかし、先生方がわからない所を優しく教えて下さり、徐々に不安は薄れ、こなすことで達成感を覚えました。授業では一番前の席に座り、課題は出された週に終わらせるように頑張りました。短大生活はあと1年。やるべきことを一つひとつ確実にこなしていきたいです。



**充実した1年間**

青森中央短期大学 幼児保育学科1年  
太田 玲奈



私にとってこの1年間はとても充実したものでした。学園祭

で担当した音楽では、仲間達と一心に演奏したことが心に残っています。保育所実習では、保育士として子ども達に関わることの大切さを感じ、さらに夢を実現する意欲が湧いてきました。来年も2年生として悔いのない学校生活を送るために、ベストを尽くしたいです。



**仲間達との絆**

青森中央短期大学 看護学科1年  
畠 澤 衣 子

看護師という新たな目標を持ち4月に入学。実際の一年間は、勉強・実習に取り組むことの繰り返して瞬く間に過ぎ去りました。しかし、そんな中でも「ねぶた祭」、「学園祭」などの行事をこなし、クラスの仲間との絆が深まった様に感じています。残り2年間も、この仲間達とならば多くの困難を乗り越えていける事でしょう!

**深まる福祉への理解**

青森中央短期大学 専攻科福祉専攻  
一 戸 愛



専攻科福祉専攻に入学してからの1年は、学校の授業だけではなく、ボランティアへの参加・実習をし、実際に利用者の方々と関わりを持つことができたことにより、経験しなければ気づくこともできなかったこともあり、福祉についてより理解を深めることができました。今後福祉の仕事に関わるうえで、この1年で得た知識を活かして行きたいと思っています。



**充実したキャンパスライフ**

青森中央文化専門学校 服飾科1年  
齊 藤 瑞 穂

服飾に関して知識は全くありませんでしたが、専門知識や技術を学び、それをファッションショーで活かすことが出来、自分に自信ができました。親元を離れて寮生活するのは初めてだったので不安もありましたが、クラスの仲間達に支えられ、今は楽しく学校生活を送っています。また、サークル活動でハンドボール部のマネージャーをしています。日頃の練習や試合で選手のサポートをし、初めての経験で大変ですが、これからも選手を支えていこうと思います。

これらで培った経験を生かして、就職活動等も頑張っていきたいと思っています。

**学びの一年**

青森中央経理専門学校 経理情報科1年  
横 濱 悠 作



学生会の会長になったのですが、まとめ役のようなものをやるのは初めてだったので不安でした。しかし友達に支えられ、何とか会長としての仕事を務めることができたと思います。そうして積んだ経験は絶対にこれから私が生きていく上での糧になると思います。

勉強では、簿記やパソコンは少しじったことがあったのですんなり学ぶことができました。そして、福祉施設でのインターンシップでは精神障害者と共に仕事をしました。普段はなかなかできない体験だったので、いい勉強になりました。

**編 集 委 員**

編集長 加藤 澄  
編集委員 新免 圭介  
坪谷 輝子

中村實枝子  
赤坂 敦子

高橋 佳子  
葛西 禮子

牧野 晴子  
中田 尋美

高橋 晴美